

処遇改善を前進させ 「学童保育の指導員」が 子どもたちの 夢になるように

大阪市学童保育指導員労働組合 執行委員長 清水 優太さん



大阪市阿倍野区のペリカン学童で働く清水さん。アルバイトの期間を合わせると、指導員歴13年目を迎えます。子どもや学童保育に対する思いを聞きました。

楽しいと感じる
仕事を選びました

高校3年生の時「夏休みのあいだ、学童保育でアルバイトをしてみないか」と声をかけられ、もともと子どもが好きだったので、「子どもと楽しく遊べてお金をもらえるなんて、なんて良い仕事なんだ」と思ったとのこと。

実際にやってみると、子どもの育ちや保護者との関わりを通してやりがいを感じるようになって、そのまま就職しました。アルバイトの時と違い、今まで感じていた以上に子どもへの視点や学童保育の仕組みのことなど、新たにわかったことがたくさんあり、「制度が変われば、より良いものになる」ことにも気づきました。

学ぶこと
実践することを大切に

「学童保育は楽しい」と言い



「カロム」を楽しむ清水さん（右）と川端書記長

います。より楽しめるようにと、「おはじきやゲーム台を一緒に子どもたちと作り楽しんでいます」とのこと。1対1や2対2で勝負ができ、おはじきを穴に落としていくゲームなのですが、時々ミラクルが起き、盛り上がるそうです。

労働組合と仕事
どちらも大切にしたい

今年度から執行委員長に選出され、先輩に支えられながら様々な取り組みをしています。

「国には指導員の処遇改善事業（資金改善に必要な費用の補助など）がありますが、大阪府はそれを使ってきていません。運動を広げて勝ち取りたいですね」。同時に「学童保育をよりよくして、学校の先生や『消防士』と同じくらい子どもたちに、学童保育の指導員になりたい」と思ってもらいたいとの思いを語る清水さん。

最後に「労働組合をがんばるからこそ一指導員としての保育も問われると感じている。だからこそ、自信をつけたいと思っています」と、率直に話してくれました。



近畿フロッグ 青年未来づくりプロジェクト「ガッツとつながろう！クリスマス交流会」大阪会場に参加した青年のみなさん（2022年12月11日 7面に関連記事）

コロナ感染拡大が続き、大阪での死者数は全国トップ1です。また、物価高騰により生活が圧迫されているたくさんの方がいます。それでも大阪府は、カジノ誘致・万博開催に固執し、医療や公衆衛生の強化や、経済対策など府民生活を守る具体的な対策はとられています。

また、今年度は「会計年度任用職員制度」が始まって3年目になります。住民のために働く自治

体労働者に、正規も非正規もありません。雇止めを許さないたたかいが重要です。

何よりも、住民のくらしや願いによりそい、真に平和な社会を実現する政治への転換が求められています。職場や地域で、政治を語り、大阪の未来を語り、いのち・くらし最優先の大阪をつくるたたかいをすすめましょう。

今こそ くらしの未来を 最優先の大阪へ くらし



おおさか
自治体の仲間

発行：大阪自治労連(大阪自治体労働組合総連合)

2023年 1月15日

〒530-0041 大阪市北区天神橋一丁目13番15号
大阪フロンティア会館 4階 ☎06-6354-7201 FAX06-6354-7206
E-mail:mado@osaka-jichiroren.jp
URL: http://www.osaka-jichiroren.jp

発行人/有田 洋明 編集人/尾崎 一美
毎月15日発行(1部10円) 組合員の購読料は
組合費に含まれています。